令和５年度事業計画

会長	渡邊　博昭

令和５年度は役員改選期であるが、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、コロナ禍以前の生活様式に対応した技師会活動を再開しながら進め、とどこおりなく会務を遂行する。

新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

① 引き続き規定および手順書の検証をする。

② リモートを併用しながら会議および研修会等のリアル開催を再開する。

③ 災害対策

学術部

① 第96回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。

② ニューリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。

③ 検査研究部門活動の助成金申請制度を20研修会申請する。

広報部

① ホームページのさらなる充実を図る。

総務部	副会長　畔上　公子

1．通常総会の開催

令和５年５月８日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが５類指定感染症へと見直されるが、引き続き新型コロナウイルス感染の動向を見極めながら実施していく。また、通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着していたが、新型コロナウイルス感染の動向を見極めながら開催を検討する。

2．会務の執行体制

令和５年度においては円滑な業務運営を進めるためにも、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。また、活動の要である事務局機能は各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

3．諸会議の開催

1）理事会・常任理事会

新型コロナウイルス感染対策を図りつつ連携を密にするために、会議方法はZoomによるWEB開催を実施していき、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2）三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3）各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

4．組織対策

1）入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

2）各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りつつ、学術部と支部との連携を強化するとともに、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3）会員施設との連携強化

施設運営管理者協議会を１年に１回開催していき、新臨技・日臨技の事業説明等の理解を図りながら各施設の意見を吸い上げ、新臨技活動につなげたい。次年度以降も多くの施設運営管理者からの出席を図れるよう、努めたい。また、本協議会の運営を強化するためにも施設運営管理者協議会の広報を進め、各施設からの登録をお願いしていく。

5．地域保健医療活動および公益事業

令和５年度は新型コロナウイルス感染拡大が想定されるため、各団体の動向を見極めながらとなるが、一般社団法人として県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指していく。臨床検査技師として、社会貢献の取り組み、全国 検査と健康展など日臨技事業の開催、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していけるよう努める。

6．求人情報

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

7．災害関係

災害時の支援活動に威力を発揮するためにも、災害支援マニュアル整備に努める。

8．表彰関係

1）第41回篠川至賞

令和５年度で第41回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中から篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2）令和５年度功労者表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

3）名誉会員

新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰する。

4）令和４年度生涯教育履修表彰

奨励賞では多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求めるべく、分野に関わらず最多得点者の上位３名を表彰する。また、生涯教育新人賞では臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

5）学会表彰

新潟県臨床検査学会で優秀な演題発表をした者を表彰する。

6）その他

各団体の表彰の基準に該当する者については積極的に推薦をしていく。

学術部　副会長　桑原喜久男

令和５年度も検査研究部門活動、新潟県臨床検査学会、生涯教育活動を中心として活動を進める。第96回新潟県臨床検査学会を令和５年12月10日（日）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。現地開催を基本として、機器展示、ランチョンセミナーを含めて準備を進めていく。検査研究部門はWebでの研修会が主となっているが、現地開催を含め開催方法を検討する。検査ニーズや臨床検査技師を取り巻く社会情勢に対応できる知識、スキルを学ぶ機会を設け、会員同士がふれあい、会員同士の輪を広げられる研修会を企画、運営していく。生涯教育事業においては日臨技の生涯教育推進事業の20研修会を到達できるよう検査研究部門長や支部長と連携を図りながら業務を進める。

1．学会　桑原喜久男

第96回新潟県臨床検査学会を令和５年12月10日（日）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催を予定している。一般演題、教育講演、特別企画の開催予定しており、コロナ禍以前のランチョンセミナー、機器展示を行い賛助会員も含め、多くの会員が集まれる学会を目指す。

2．検査研究部門　中村　岳史

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術が、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し実践していくことが極めて重要である。そのため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門（管理運営分野、救急検査分野、公衆衛生・生殖医療分野）の９部門６分野で構成され、各部

門の活動費は12万円、各分野は８万円とする。

研修会参加費は、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は会員の３倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とする。

研修会開催は、オンライン研修会と並行し新型コロナウイルス感染対策を十分に実施した上で、現地開催や実技研修の開催について前向きに検討する。オンライン研修会により、会員は比較的参加しやすい環境となっており、会員のニーズが反映された開催形式を考慮し企画運営していく。各部門においては複数回の研修会を開催できることを目指したい。

研修会の内容は、基礎的内容から専門性を高める内容など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整え、企画運営にあたる。特に、技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や他団体との共催による研修会を企画することを奨励する。

ポストコロナにおける研修会開催形式について考慮し、幅広い知識や技術を習得できるよう会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

３．精度管理事業　田端　篤

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

2023年度も臨床化学、微生物、血球計算、血液フォトサーベイ、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。また臨床検査室の品質保証施設認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

４．生涯教育　近藤　善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。本年度は新型コロナウイルス感染症の５類移行を考慮し、現地開催や Web 研修会など社会状況に応じた研修会を実施し生涯教育の登録を進めていく。加えてボランティア活動など啓発運動も再開となれば併せて登録を進めていく。日臨技情報総合システム（JAMTIS）の運用および「生涯教育推進研修会助成金」の申請と助成金受領の支援を引き続き図っていく。

広報部　副会長　田端　篤

2023年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの３本柱での運営を通して会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては学術的な内容を基本とする中で、様々な企画を取り入れながら会員に有益な情報を提供できる会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

１）新臨技会誌　神林　真弓

会誌発行は327号から330号までの年４回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き基礎から専門分野まで幅広く焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。
〔公益活動報告〕少しずつ形式を変え開催する公益活動もでてきたが、安全に開催できるようになった時には是非以前の様に積極的に参加し、会員には公益活動の大切さを知りボランティア活動にも参加していただけるよう働きかける頁としたい。
〔認定検査技師制度〕認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載し、各種認定取得を目指している多くの会員を支援したい。
〔施設紹介〕臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域の施設を紹介していきたい。
〔学会参加報告〕学会で発表することの意義や、当日までのプロセスなどを掲載し、これから発表を考えている人たちの参考となるような頁にしたい。

２）新臨技ニュース　佐藤　卓

理事会議事録、連絡事項、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるようなレイアウトを心がけたい。発行目安は月１回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

３）新臨技ホームページ　近藤　善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えている。今年度も臨床検査を取り巻く環境変化について、会員に有益な情報をタイムリーに更新していきたい。また、メール文書配信システムや施設運営管理者協議会連絡用メールアドレスの登録フォームも引き続き運用していく。